

三閭廟

戴叔倫

沅湘流れて 尽きず

屈子 怨み 何ぞ 深き

日暮 秋風 起り

蕭蕭 楓樹 の 林

【作者】

戴叔倫（七三二～七八九）・中国，中唐の詩人。金壇（江蘇省）の人。字は幼公。撫州刺史として治績をあげ、晩年は退いて道士となった。韋応物らとともに中唐初期にあつて、五言詩を得意とし、田園，山林を詠じ、閑雅な幽情を叙した詩が多い。

【語釈】

*三閭廟：楚の屈原の廟。汨羅江（べきらこう）のほとりにある。 *沅湘：沅江と湘江。ともに洞庭湖に注ぐ。 *屈子：屈原のこと。懷王に仕えて三閭大夫（宮内庁長官）となったが、讒言を被り、追放された。屈原は沅江と湘江の流域を放浪し、ついには憂憤のあまり汨羅の淵にみを投じて死んだ。 *蕭蕭：もの寂しい様。

【通釈】

沅江と湘江と二つの川は永遠に流れてつきることがない。その流れのように讒言を受けた屈原の怨みも、尽きることなく深いことであろう。日が暮れて秋風が吹き出した。楓の林がさわさわと音をたてている。その音はあたかも屈原の怨みを訴えているかのようで、ひとしおもの寂しい。